

# CASBEE® - 建築(新築)

# 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)九州フィナンシャルグループ	階数	地上11F、地下2F
建設地	福岡県福岡市博多区博多駅前2丁	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	350 人
地域区分		年間使用時間	3,600 時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年5月 0.0	評価の実施日	2017年9月5日
敷地面積	769 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社日建設一級建築士事務所
建築面積	586 m <sup>2</sup>	確認日	2017年9月5日
延床面積	6,798 m <sup>2</sup>	確認者	深川 明彦



ください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 1.5</b></p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>☆☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b> Qのスコア = 3.8</p>		
<p><b>Q1 室内環境</b> Q1のスコア = 3.7</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> Q2のスコア = 4.1</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> Q3のスコア = 3.7</p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b> LRのスコア = 3.1</p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b> LR1のスコア = 3.0</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> LR2のスコア = 3.3</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> LR3のスコア = 3.0</p>

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>本計画では主要用途をオフィスとして、周辺環境を考慮した植栽計画、建物形状、環境負荷低減を実現する設備計画、日よけ効果を適切にもった外装計画による熱負荷の低減など、適切な環境品質・サービス性能となる仕様を各部で想定している。</p>	<p><b>その他</b></p> <p>大博通りの街並み形成に寄与する、計画地周辺の歩車移動の円滑化に寄与。また、敷地内の角部を斜めにカットすることで街に開かれた配置計画としている。</p>	
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Low-eガラスによる熱的侵入に対する高い外皮性能</li> <li>・加湿機能付き空調機による調湿</li> <li>・ブラインドと縦横庇による室内への屋光制御</li> <li>・外壁や床(特にピロティ)において、室内への熱の侵入</li> </ul>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>館全体のサービス性能を上げると共に、バリアフリー新法(建物移動等円滑化基準)を満たす仕様を想定している。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>緑化を適宜設けることで良好な景観を形成することを想定している。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>室内への日射対策を講じることで建物への熱負荷を抑制することを想定している。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>節水・雨水利用など水資源の保護等の観点から可能な限り対策を講じ、建物の一部に再生材料の使用を想定している。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>日よけ外装によるグレアの低減、屋内照明の外へ洩れる光の低減。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される